

木造地藏菩薩坐像



〔登錄年月日〕昭和六〇年三月三〇日  
〔種別〕有形文化財（彫刻）  
〔名稱〕木造地藏菩薩坐像  
〔点数〕一軀  
〔所有者等〕宗泰院  
〔所在地等〕高円寺南二―三一―五

## 木造地藏菩薩坐像

像高二七・一cm、膝張二一・四cm、臂張一九・一cmの一本造りの仏像である。

胸前を開き、両手をもって小児を横抱きにして右乳を含ませ、右肩には別の小児が寄り添った造形である。全体に荒彫りで、茶赤色塗が残されており、箱作りの黒色塗の台座に固定されている。由緒・作者などは一切不明である。

小児を抱き、身辺に小児を配する像は江戸時代にも数多く造られているが、その多くは石仏である。本像のように荒彫仕上げの木造地藏菩薩の例は江戸時代にはあまり見られないものである。

しかしながら、造形が類似する他の地藏菩薩と比較して考えれば、乳を含ませている点から江戸時代の嗜好の所産と思われる。

本尊は宗泰院が明治四二年（一九〇九）に市ヶ谷（新宿区）から現在地に移転してくる以前から所持していたもので、「子授け地藏」として現在でも信仰されている。

類例の稀な遺品で、江戸時代における民間の地藏信仰の一表現を示す仏像である。

### 【文化財所在地】

